

かいえん 測量船「海燕」出動！～徳山下松港 コンテナ船転覆事故対応～

7月31日（日）徳山下松港晴海ふ頭において発生したコンテナ船の転覆事故により、多数のコンテナが流出したこと等に起因して港湾の利用に支障が生じました。

港湾機能の早期回復に向け、流出したコンテナの散乱状況を調査するため、中国地方整備局の要請により、関門航路事務所所属の測量船「海燕」が緊急出動しました。

8月3日（水）早朝より、TEC-FORCE隊員2名と共に基地港である北九州港を出港して徳山下松港晴海ふ頭へ向かい水没したコンテナの散乱状況調査のため、ナローマルチビームによる海底面調査を実施しました。

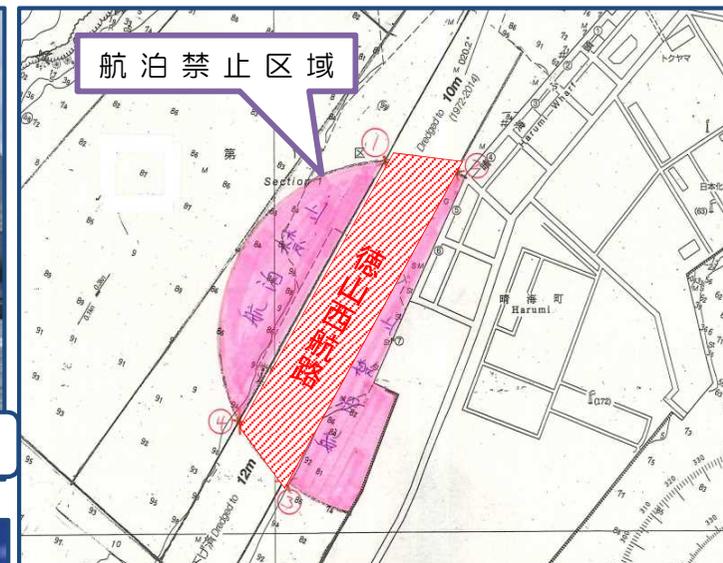
調査の結果、8月4日（木）18時に航泊禁止が全て解除され、徳山西航路の航行が可能になるなど港湾機能の一部が回復しました。



関門航路事務所 測量船「海燕」 北九州港を出港

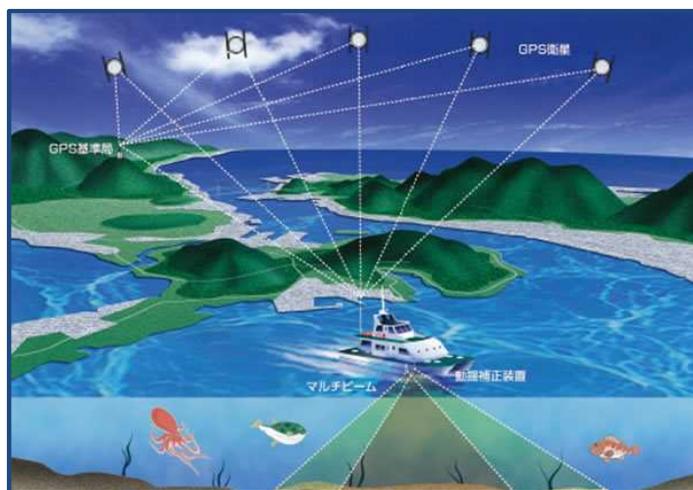


中国地整所属の「たましおII・おおつ」と調査中の「海燕」

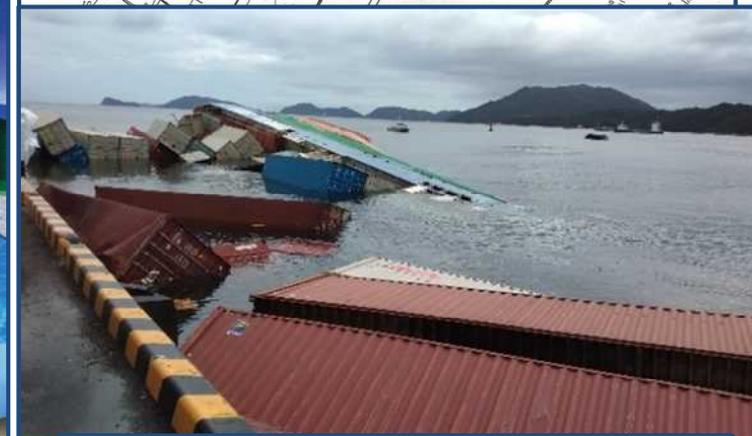


測量船「海燕」について

- ・アルミ合金の双胴船のため軽量で安定性が高く、測量地点まで迅速（巡航速度27ノット：時速約50キロメートル）に移動することができます。また、高速（最大15ノット：時速約27キロメートル）で移動しながら測量を行うことができます。
- ・水深の測定は、船底に設置された2基の送受波器から海底に向かって扇状に発射される超音波を送受信して行います。（最大探査水深は200m）通常は、速力10ノットで航行し、振幅90°で音波を送受信して水深の約2倍の幅を探査しています。



「海燕」の海底測量イメージ



散乱したコンテナ